

石川九楊の連続個展「石川九楊大全」 2024年に上野の森美術館で開催

2023年9月19日
「石川九楊大全」実行委員会

書家 石川九楊（いしかわ・きゅうよう）の仕事の全容を見せる連続個展「石川九楊大全」（いしかわきゅうよう・たいぜん）を上野の森美術館（東京）で開催しますのでお知らせいたします。 *会期：2024年6月8日（土）～2024年7月28日（日）

「石川九楊大全」は、書表現により時代を反映した作品を書き続けてきた石川九楊の創作の全容を明らかにする連続展です。現在における「書く」行為とその先に見えてくるものを問う、大規模展覧会となります。



「ざぼんに刃をあてる刃を入れる」 24cm×34cm 2021年
近代俳句の忘れられた革命家、河東碧梧桐の俳句から一〇九句を選び書に認めたもののひとつ。

【展覧会の見どころ】

◎一作家による二ヶ月間、連続開催の大型個展

本展では、作品の全容を展示するために会期をひと月ごとに分け、展示作品を全面的に入れ替えた、2つの異なる展覧会を開催します。

6月開催の【古典篇】では「歎異抄」「源氏物語」や「徒然草」、中国の「李賀」の詩など古典に取り組んだ作品や、「千字文」を壺1,000枚に綴った「壺千字文」などが並びます。7月開催の【状況篇】では現代作家や自作の詩文の言葉を書いた作品を展覧いたします。

◎多数の未発表作品の展示

2017年に上野の森美術館で開催された「書だ！石川九楊展」では展示することのできなかった作品や、「妻を語る」シリーズ、「河東碧梧桐109句選」、「戦後史編」シリーズなどの新作を多数出品いたします。

あらたに将棋の駒に揮毫した作品を出品するほか、【古典篇】、【状況篇】いずれにおいても大型の新作作品を発表する予定です。

□ このリリースに関するお問い合わせ：

「石川九楊大全」実行委員会 加藤・小堀 Email: contact@ishikawakyuyoh-taizen.com

【資料】

■ 「石川九楊大全」展覧会概要

石川九楊大全 【古典篇】 遠くまで行くんだ
会期 2024年6月8日（土）～6月30日（日）

石川九楊大全 【状況篇】 言葉は雨のように降りそそいだ
会期 2024年7月3日（水）～7月28日（日）

会場 上野の森美術館（東京）

主催 石川九楊大全実行委員会
日本経済新聞社
上野の森美術館

■ 「石川九楊大全」展覧作品（予定） *文末、別紙に広報画像一覧がございます。

石川九楊大全【古典篇】 遠くまで行くんだ

1. 李賀シリーズ
2. 歎異抄No.18
3. 源氏物語五十五帖 日本古典文学
4. 盃千字文
5. 書きおろし新作 他

石川九楊大全【状況篇】 言葉は雨のように降りそそいだ

1. 初期未発表作品（2017年上野の森美術館展覧会以降に制作された作品）
2. 「妻を語る」シリーズ 田村隆一 詩 吉増剛造 詩
3. 9・11現代詩句 エロイ・エロイ・ラマ・サバクタニ又は死編
4. 河東碧梧桐109句選
5. 戦後詩新作50点（未発表）
6. 九楊書 将棋駒三式
7. コロナ、ウクライナ関連 書きおろし新作 他

■石川九楊作品について

石川九楊作品は、2020年、東京都現代美術館（MOT）でアンリ・マティス等との「ドローイングの可能性」が企画開催されるなど、書という領域をこえて現代美術の領域からも高い評価を受けています。

「書」という営みを解明した石川九楊の「筆蝕論」は、書論・書史論にとどまることなく、表現論、日本語論、さらには現代を読み解く文化・文明論へと展開を見せており、英語・中国語にも翻訳されるなど、海外からも注目を集めています。

■石川九楊（いしかわ・きゅうよう）プロフィール

書家。1945年 福井県生まれ。京都大学法学部卒業。京都精華大学教授、文字文明研究所所長を経て、現在、同大名誉教授。

「書は筆蝕の芸術である」ことを解き明かし、書の構造と歴史を読み解く。評論家としても活躍し、日本語論、日本文化論は各界にも大きな影響を与える。

作品制作・執筆活動、いずれの分野でも最前線の表現と論考を続け、現在までに書作品千点・著書百点以上を世に送り出した。

受賞歴

- ・サントリー学芸賞(1990)『書の終焉』(同朋舎出版)
- ・京都府文化賞功労賞(2000)
- ・毎日出版文化賞(2002)『日本書史』(名古屋大学出版会)
- ・日本文化デザイン賞(2002)・京都新聞大賞文化学術賞(2003)
- ・大佛次郎賞(2009)『近代書史』(名古屋大学出版会)
- ・京都市文化功労者(2021)

作品

『歎異抄』(二十一連作)、『源氏物語書巻 五十五帖』
『9・11シリーズ』『3・11シリーズ』『碧梧桐一〇九句選』など。
制作作品は既発表1,000点、未発表1,200点を超える。

作品集

- 『氷焰』(原色社)
- 『しかし』(思文閣出版)
- 『自選自注石川九楊作品集』(新潮社)
- 『石川九楊作品集 俳句の臨界 河東碧梧桐一〇九句選』(左右社)
- 『歎異抄』(京都書院)など。

著書

『書の風景』(筑摩書房)
『筆蝕の構造』(筑摩書房)
『二重言語国家日本』(東京大学出版会)
『石川九楊著作集』全12巻(ミネルヴァ書房)など。
これまでに100冊以上を上梓。

編著

- 『書の宇宙』全24巻(二玄社)
- 『蒼海 副島種臣書』(二玄社)など

■今後の予定

1.カタログ・レゾネ『石川九楊全作品集』

石川九楊の2,200点にのぼる全作品を収録するカタログ・レゾネ(日本語、英語、中国語表記)の制作が進められ、思文閣出版より2024年6月発行予定です。

2.「石川九楊大全」展覧会関連企画 「書は音楽である」実証コンサート

石川九楊の書論のひとつである「書は音楽である」を実証するプロジェクトとして、自身の書作品を楽曲としたトーク&コンサートが予定されています。

親鸞の「歎異抄」全文を書いた作品「歎異抄No.18」をプログラムにより解析。
一点一画に書き込まれた「音楽」を譜面化したものを、弦楽四重奏と電子音楽、二つのバージョンで演奏いたします。

会場は台東区立旧東京音楽学校奏楽堂となる予定で、詳細は後日実行委員会よりお知らせいたします。

3. 「石川九楊大全」展覧会関連企画 講演会「書は文学である」

展覧会中には講演会も企画しています。テーマは悪筆論。芸術新聞社発行予定（2023年10月）の三島由紀夫、川端康成、松本清張ら作家の書と文学のつながりを解いた『悪筆論』について語ります。詳細は後日実行委員会よりお知らせいたします。

4. 『石川九楊自伝——〈彼方〉への歩行』（仮題）

発行・ミネルヴァ書房。2024年5月発売予定。

5. その他石川九楊に関連する展覧会

2023年10月6日（金）～2024年1月14日（日）*前期・中期・後期 11/5～11/7、12/8～12/10は閉館
「石川九楊賞観精選 だれも知らない維新——副島種臣」
佐賀城本丸歴史館

2024年1月12日（金）～2月25日（日）
「河東碧梧桐と石川九楊展」 碧梧桐生誕150年記念 一〇九句選初公開
I/M 市立伊丹ミュージアム 柿衛文庫

2024年10月5日（土）～11月17日（日）
「源氏物語と日本古典文学——石川九楊展」
徳島県立文学書道館

2024年12月7日（土）～2025年3月16日（日）
「源氏物語——石川九楊展（仮称）」
福井県ふるさと文学館

■ 広報画像一覧 *別紙ご参照ください

石川九楊大全【古典篇】遠くまで行くんだゝ
会期：2024年6月8日（土）～6月30日（日）

1. 源氏物語書卷五十五帖「若菜 上」

59cm×94cm 2008年

「源氏物語」五十四帖に題名だけの「雲隠」を加え「源氏物語書卷五十五帖」とし、各帖を象徴する箇所を、書の表現の可能性を極限まで押しひろげようと試みた。

2. 源氏物語書卷五十五帖「権本」

59cm×94cm 2008年

「源氏物語」五十四帖に題名だけの「雲隠」を加え「源氏物語書卷五十五帖」とし、各帖を象徴する箇所を、書の表現の可能性を極限まで押しひろげようと試みた。

3. 歎異抄 No.18

92cm×57cm 1988年

親鸞の「歎異抄」全文が書き込まれている。書き上げるのに八ヶ月を要した。本作品から採譜・起譜した「音楽」の演奏会が展覧会関連イベントとして開催される。

4. 李賀詩 感諷五首（五連作より）

360cm×192cm 1992年

唐代の鬼才・李賀の詩をニジミを使って書きあげた五連作のひとつ。窯変の美学に「アジア的苦さ」を感じていた。

5. 徒然草 No.22

95cm×62cm 1993年

「あやうこそ物狂ほしけれ」という徒然草の世界を、早く書いた姿をととても遅い速度で再現し、細く細かい純白と、隙間すらない漆黒、その両方の世界を書きあげた。

石川九楊大全【状況篇】言葉は雨のように降りそそいだ

会期：2024年7月3日（水）～7月28日（日）

1. ざぼんに刃をあてる刃を入るゝ

24cm×34cm 2021年

近代俳句の忘れられた革命家、河東碧梧桐の俳句から一〇九句を選び書に認めたもののひとつ。

2. 夜も鳴く蟬の灯あかりの地に落る声

24cm×34cm 2021年

近代俳句の忘れられた革命家、河東碧梧桐の俳句から一〇九句を選び書に認めたもののひとつ。

3. エロイ・エロイ・ラマサバクタニ

270cm×341cm 1972年

白い紙と黒い墨、毛筆のタッチといった書の情緒を封印した「灰色の時代」の作品。言葉のコラージュや補助線を駆使し灰色の紙に鉛筆のように書いた。

4. 「ヨーロッパの戦争」のさなかに——人類の未熟について

95cm×60cm 2023年

ヨーロッパでの戦争についての自作詩文を書きあげた近作。911事件、福島原発爆発、領土問題など、「書で時代を書く」ことは絶えることがない。

5. 「全顔社会」の恢復を願って

60cm×95cm 2022年

新型コロナウイルス蔓延下に書かれた自作詩文の作品。911事件、福島原発爆発、領土問題など、「書で時代を書く」ことは絶えることがない。

*上記リストのウェブ用RGB画像データにつきましては、<https://www.artpr.jp/prs/ishikawakyuyoh-taizen2024> にもございますので、併せてご利用ください（登録が必要です）。リスト以外の画像についてはご相談ください。

*紙媒体のプレス関係者の方は、「印刷用CMYK画像」のご用意がございます。ご希望の方は、contact@ishikawakyuyoh-taizen.com までご連絡ください。

*画像は展覧会告知の目的でのご利用とし、また改変・商用利用等はお控えいただきたく、お願い申し上げます。

以上

石川九楊大全【古典篇】遠くまで行くんだ

会期：2024年6月8日(土)～6月30日(日)

会場：上野の森美術館(東京)

ご使用希望の画像番号をお知らせください。作品のタイトルおよびクレジットは、下記の表の記載となります。

A01



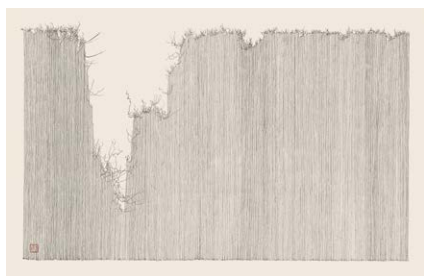
源氏物語書卷五十五帖「若菜 上」

59cm ×94cm

2008年

「源氏物語」五十四帖に題名だけの「雲隠」を加え「源氏物語書卷五十五帖」とし、各帖を象徴する箇所を、書の表現の可能性を極限まで押しひろげようと試みた。

A02



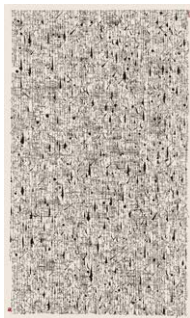
源氏物語書卷五十五帖「椎本」

59cm ×94cm

2008年

「源氏物語」五十四帖に題名だけの「雲隠」を加え「源氏物語書卷五十五帖」とし、各帖を象徴する箇所を、書の表現の可能性を極限まで押しひろげようと試みた。

A03



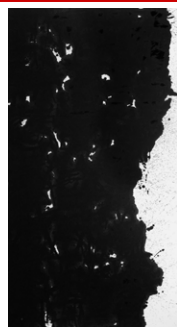
歎異抄 No.18

92cm×57cm

1988年

親鸞の「歎異抄」全文が書き込まれている。書き上げるのに八ヶ月を要した。

A04



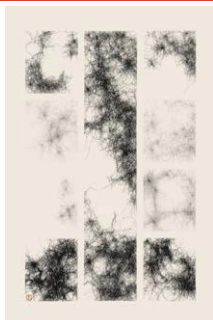
李賀詩 感諷五首(五連作より)

360cm×192cm

1992年

唐代の鬼才・李賀の詩をニジミを使って書きあげた五連作のひとつ。窯変の美学に「アジア的苦さ」を感じていた。

A05



徒然草 No.22

95cm×62cm

1993年

「あやしうこそ物狂ほしけれ」という徒然草の世界を、早く書いた姿をととても遅い速度で再現し、細く細かい純白と、隙間すらない漆黒、その両方の世界を書きあげた。

◎画像ご使用の際は、展覧会の告知のみに使用し、改変や他者に譲渡などなさらぬようお願いいたします。

◎お問い合わせ先：「石川九楊大全」実行委員会 加藤・小堀 E-mail: contact@ishikawakyuyoh-taizen.com

石川九楊大全【状況篇】言葉は雨のように降りそそいだ

会期：2024年7月3日(水)～7月28日(日)

会場：上野の森美術館(東京)

ご使用希望の画像番号をお知らせください。作品のタイトルおよびクレジットは、下記の表の記載となります。

B01



ざぼんに刃をあてる刃を入れる、

24cm×34cm

2021年

近代俳句の忘れられた革命家、河東碧梧桐の俳句から一〇九句を選び書に認めたもの。

B02



夜も鳴く蟬の灯あかりの地に落る声

24cm×34cm

2021年

近代俳句の忘れられた革命家、河東碧梧桐の俳句から一〇九句を選び書に認めたもの。

B03



エロイ・エロイ・ラマサバクタニ

270cm×341cm

1972年

白い紙と黒い墨、毛筆のタッチといった書の情緒を封印した「灰色の時代」の作品。言葉のコラージュや補助線を駆使し灰色の紙に鉛筆のように書いた。

B04



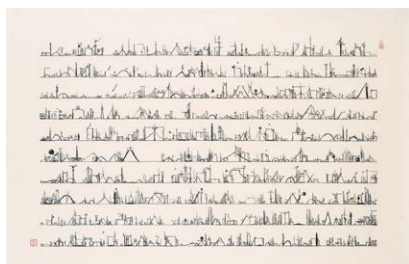
「ヨーロッパの戦争」のさなかに——人類の未熟について

95cm×60cm

2023年

ヨーロッパでの戦争についての自作詩文を書きあげた近作。911事件、福島原発爆発、領土問題など、「書で時代を書く」ことは絶えることがない。

B05



「全顔社会」の恢復を願って

60cm×95cm

2022年

新型コロナウイルス蔓延下に書かれた自作詩文の作品。911事件、福島原発爆発、領土問題など、「書で時代を書く」ことは絶えることがない。

◎画像ご使用の際は、展覧会の告知のみに使用し、改変や他者に譲渡などなさらぬようお願いいたします。

◎お問い合わせ先：「石川九楊大全」実行委員会 加藤・小堀 E-mail: contact@ishikawakyuyoh-taizen.com